

船舶事故調査報告書

平成24年8月30日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年5月19日 09時18分ごろ
発生場所	長崎県平戸市平戸島北西岸のハナグリ鼻 平戸市所在の肥前横島灯台から真方位204° 1,900m付近 (概位 北緯33° 24.4′ 東経129° 31.6′)
事故調査の経過	平成24年5月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 五十六 ^{めいちょう} 明澄、19トン NS2-14885（漁船登録番号）、明星水産有限会社 18.35m (Lr) × 3.96m × 1.86m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数160、平成元年1月19日
乗組員等に関する情報	船長 男性 36歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成13年3月7日 免許証交付日 平成22年9月24日 (平成28年3月6日まで有効) 甲板員 男性 54歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年7月14日 免許証交付日 平成21年8月13日 (平成26年12月15日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船首船底部に擦過傷及び破口
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、長崎県松浦市 ^{つきのかわ} 調川港で水揚げを終え、船首約1.0m、船尾約1.8mの喫水で同港から長崎県小値賀町小値賀島北西方沖の漁場へ向かい、甲板員が、出港操船を終えた船長から船橋当直を引き継ぎ、針路を平戸島北東岸の ^{つば} 鑿崎北方約400mに向ける約277°（真方位、以下同じ。）に定め、平戸瀬戸北口沖を約9.3ノットの対地速力で手動操舵により航行した。 甲板員は、操舵室前部右舷寄りの舵輪の右後方で椅子に腰を掛け、舵輪を左手で持って操船を行い、平戸瀬戸北口を通過し、前方の ^{しらたけ} 白岳瀬戸に他船が見当たらなかったため、緊張感が薄れて眠気を感じるようになった。 甲板員は、鑿崎北方沖で平戸島北西岸のハナグリ鼻北方約200mに向くよう針路を約258°に転じて航行を続けた。 本船は、白岳瀬戸を西進中、甲板員が椅子に腰を掛けて船橋当直を続け

	<p>ていたところ居眠りに陥り、平成24年5月19日09時18分ごろハナグリ鼻付近の岩場に乗り揚げた。</p> <p>本船は、乗り揚げたことに気付いた甲板員が乗揚の状況等を確認したのち、機関を後進にかけて自力で離礁し、船長が会社に事故の報告を行い、長崎県佐世保市の造船所に向かった。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南南東、風力 2、視程 約2～3海里</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期</p>	
その他の事項	<p>本船は、本事故前々日の5月17日早朝、船団の僚船と共に時化のため、基地である佐世保市神崎漁港に帰港して休んだのち、18日15時ごろ同漁港を出港して19時ごろ小値賀島北西方沖の漁場に到着し、20時ごろから操業を開始した。</p> <p>本船は、22時ごろ漁獲物を積んで漁場を発進し、19日02時30分ごろ調川港に入港して水揚げを行った。</p> <p>甲板員は、本事故の前年の約1年間は本船に船長として乗船していた。</p> <p>甲板員は、船団の網船の甲板員として雇入れされていたが、漁場において、網船の乗組員のうち1人か2人が手伝いのために順番で運搬船へ移乗していたことから、本事故当時、運搬船の本船に乗り組み、漁場と水揚げ港間で入出港以外の操船を行っていた。</p> <p>甲板員は、17日は自宅で休養を取り、18日午後に網船で漁場へ向かう間も船員室で休憩しており、睡眠不足や疲労が蓄積した状態ではなく、飲酒もしていなかった。</p> <p>甲板員は、船橋当直中に眠気を感じた場合には、外気に当たったり、顔を洗ったりして眠気を覚ますようにしていたが、本事故当時、椅子に腰を掛けた状態で船橋当直を続けていた。</p> <p>本船は、居眠り防止装置はなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、白岳瀬戸を手動操舵で西進中、単独で船橋当直中の甲板員が居眠りに陥ったことから、平戸島北西岸のハナグリ鼻付近の岩場に向けて航行し、同岩場に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>甲板員は、平戸瀬戸北口を通過し、前方の白岳瀬戸に他船が見当たらなかったため、緊張感が薄れて眠気を感じるようになった際、椅子に腰を掛けて船橋当直を続けたことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、甲板員が、居眠りに陥ったのち、舵輪を持っていた左手が動いて左舵が取られ、ハナグリ鼻付近の岩場に向けて左転しながら航行した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、白岳瀬戸を手動操舵で西進中、単独で船橋当直中の甲板員が居眠りに陥ったため、平戸島北西岸のハナグリ鼻付近の岩場に向けて航行し、同岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	

参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船橋当直中に眠気を感じた場合は、椅子から離れて外気に当たったり、顔を洗ったりして眠気を払うこと。・ 眠気を払うことができないときは、他の乗組員と船橋当直を交替すること。
----	---